

⑤⑤ JR小岩井駅活性化事業

受賞機関 滝沢市

キーワード 駅前広場・駅舎等の一体整備、
歴史的・文化的価値の保存活用

全建賞審査委員会の評価ポイント

JR小岩井駅活性化事業では、市が駅前広場等を整備し、安全性と利便性を向上させた。駅舎は市・JR・小岩井農牧株式会社が復元改修し、市が複合交通施設として管理している。大正時代の駅舎を復元するに当たり、モノクロ写真のAI復元技術といった最新技術を活用するとともに、内装にはJR車両のシートをリメイクしたベンチを配置するなど、環境問題にも配慮した点が評価された。

1. はじめに

JR小岩井駅は、岩手県滝沢市大釜風林地区に大正10年に開業し、地域住民や観光客の足として、公共交通の要所となっている。開業以来、国鉄（当時）及びJR東日本が管理を行ってきたが、狭い待合室に加え、駅舎や隣接するトイレの老朽化が課題となっていた。また、駅前広場は歩車道が整備されておらず、送迎車と利用者が交錯し、危険な状況となっていたため、利用者の安全確保や利便性の向上を目的として、JR東日本や小岩井農牧株式会社の協力のもと事業を実施した。現在は、市が駅舎を含む交通施設全般の維持管理を行い、清掃などの一部業務を地元自治会に委託している。

2. 事業の概要

事業用地は市が取得し、JR東日本から施設の譲渡を受け、駅前広場、トイレ、駅舎を段階的に整備した。駅舎整備では、待合環境の向上や築100年以上経つ建造物の文化的・歴史的な価値を考慮した結果、国登録有形文化財を目指すことを想定し、JR東日本を主体として復元工事を実施することで合意した。復元に当たり、当時のモノクロ写真をもとにAIによる復元技術などを活用し、瓦屋根、壁、窓などの建材や色合いを選定した。



小岩井駅復元リニューアル記念式典（令和5年12月3日）

3. 事業の成果

駅前広場整備（令和2年～3年）では、歩車道の分離、車両防護柵や照明の設置により利用者の安全が確保された。

トイレ整備（令和4年）では、衛生環境の改善に加え、路線バス・タクシー利用者の待合室を併設し、待合環境も改善した。

駅舎整備（令和5年）では、駅の活用や管理に関して、地域向けの説明会や意見交換会を開催し、「駅舎を地域コミュニティの場として利用したい」との声を受け、駅無人化により不要となった駅事務室を交流スペースとして整備することで、待合環境も改善し、利用者の利便性が向上した。駅舎内装も、開業当時に建てられた類似建造物を参考とした照明などが設置されているほか、JR車両のシートをリメイクしたベンチ、駅開業と同年代の木材を使用した駅標や什器を小岩井農牧株式会社からの寄贈により設置した。

事業完了後に市がこれらの施設の管理者となり、清掃等の一部業務を地元自治会が担っている。また、地元自治会を中心に、地元保育園児との花壇の植栽、イベントや地域サロンの開催など、駅を拠点としたにぎわいづくりに地域が積極的に取り組んでいる。



JR車両のシートをリメイクしたベンチ

4. おわりに

本事業により、小岩井駅は地域に愛される駅に生まれ変わり、国登録有形文化財として登録が見込まれる。詩人・宮沢賢治はじめ、多くの人々も利用した歴史的建造物を今後も保存しつつ、更なる活用により、地域コミュニティの拠点として、また、観光資源である小岩井農場などの玄関口としても多くの方に利用されることを期待する。

賛助会員 盛岡舗道(株)、(株)メグミ